

京都発♥ママ達による
福島こども応援プロジェクト

第1回幼稚園留学2017 活動報告



いつも、ミンナソラノシタの活動を見守り
応援してくださり心から感謝致します。

2013年7月に団体を立ち上げて以来、試
行錯誤を繰り返しながらも私たちなりの最善
を尽くして参りました。これもひとえにご支
援いただいた皆さまのお蔭と深く感謝申し上
げます。本当にありがとうございました。

2017年秋に行いました、ミンナソラノシ
タとしては初めての幼稚園留学についてご報
告致します。併せてミンナソラノシタ5年の

歩みをまとめてみました。多くの方々の温か
な想いが紡がれていくこの活動。福島と京都、
そして日本、世界が「100年先もみんな空の
下(ミンナソラノシタ)で幸せに暮らせていま
すように」と願いを込め、幼稚園留学が京都の
力を集結して実施できる日を夢見ています。

皆さまの一層のご支援、ご協力をどうぞよ
ろしくお願い申し上げます。

2018年5月

ミンナソラノシタ 代表 林 リ工

幼稚園留学とは

東京電力福島第一原発事故の影響で生活環境が変わってしまった福島県の幼稚園児とその母親を京都に招き、3週間生活してもらう取り組みです。

子ども達は3週間京都の幼稚園に通園し、自然に触れ合いながら思いきり外遊びを楽しみます。母親は放射線量を気にしながら生活するストレスから解放され、リフレッシュすることができます。

過去3回はまこと幼稚園が主体的に取り組み、ミンナソラノシタ（通称ミナソラ）は歓迎会や茶話会などをお手伝いしてきましたが、2017年からはミナソラ主催で独自に取り組みました。

この幼稚園留学は、福島に暮らす子ども達が京都で3週間過ごすことにより心身ともにリフレッシュできることを期待して行っています。

これは、チェルノブイリ原発の事故を受けて現在もベラルーシ共和国が国策として行っている子ども達の保養（非汚染地域に21日以上滞在すること）によって体内の放射線量が半減するというデータにヒントを得たもので、子ども達に少しでも安心できる生活を送ってもらおうという取り組みです。

また、受け入れる側の京都の私達にとっても、福島の生の声を聞き、防災意識を高め、被災地に心を寄せるきっかけともなります。

そして最大の目的は、福島の子と京都の子・地域の方々が友達になることです。

募 集

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会を通じて、県内137の私立幼稚園・認定こども園の全園児対象にチラシ17000枚を配布

参加者

応募者13組の中から4組（大人4名+子ども9名）を選定

- ① Gさん（いわき市）+ 年長児 + 年少児 + 未就園児
- ② Iさん（郡山市）+ 年長児 + 未就園児
- ③ Mさん（郡山市）+ 年長児 + 未就園児
- ④ Tさん（郡山市）+ 年長児 + 未就園児

実施期間

2017（平成29）年10月14日から11月4日まで

受け入れ幼稚園

大原野幼稚園（2名）、洛西花園幼稚園（4名）

住 居

起業家シェアハウスフェスパ（向日市）



主な行事

大原野幼稚園歓迎会

福島からの母子と幼稚園保護者との交流。福島の実況説明と質疑応答。

洛西花園幼稚園歓迎会

福島からの母子と幼稚園保護者との交流。福島の実況説明と質疑応答。

ランチ交流会(主催:キッチンつぶまる)

福島の母親と幼稚園の保護者、ミナソラメンバーとの交流。

茶話会(場所:洛西花園幼稚園)

抹茶体験を通して、福島の母親と幼稚園の保護者、ミナソラメンバーとの交流。

座禅体験会(場所:洛西花園幼稚園)

妙心寺僧侶指導による座禅体験。

クッキング教室(場所:洛西花園幼稚園)

保護者向けのクッキング教室に、福島の母、ミナソラメンバーが参加。

竹遊び(場所:シェアハウス フェスバ)

当初計画していたどんぐり拾いイベントが、台風により中止になったため、おとくに竹あそびの会・竹遊会(長岡京市)協力の下、竹遊びを行った。



柿狩り



遠足にて



座禅体験会



シェアハウス フェスバにて

メディア取材

京都新聞	4回掲載
毎日新聞・朝日新聞・日本経済新聞	各1回掲載
NHKテレビ	1回放送

ご協力いただいた皆さま(敬称略)

幼稚園児受け入れ	大原野幼稚園、洛西花園幼稚園
住宅提供	リヴ
食材提供	生活協同組合コープ自然派京都、生活クラブ京都・エル・コープ
野菜提供	オーガニックNICO
無料体験提供	千弥農園、丸益西村屋、
物品・サービス提供	ならの木薬局大原野店、津山刺繍、寺子屋、陶芸教室・料理店nest、TUKKA JA KUKKA、バリニーズマッサージ、おとくに竹あそびの会・竹遊会
幼稚園留学・チャリティコンサートコーディネート	京都信用金庫、キリン堂
ご寄付	キリン堂、生活クラブ京都・エル・コープ、NPO法人和はじめ多くの企業・団体・幼稚園・個人の皆さま
助成金	ラッシュジャパン、浄土真宗本願寺派(西本願寺)、京都新聞社会福祉事業団、京都オムロン地域協力基金、向日市社会福祉協議会

福島からの参加者の感想（一部抜粋）

放射線の影響を気にせず、安心して生活できたことはもちろん、ミナソラメンバーや幼稚園の保護者の方々と交流できたことで、お互いの思いを知ることができ、何より皆さんの温かい心遣いが嬉しかった。

ふだん気にしている買い物もストレスなくて本当に良かった。

安心、安全な美味しい自園給食に自然豊かな幼稚園でのびのびと過ごす事ができ、園長先生をはじめ、先生方、保護者の方々が温かく歓迎してくれたことが嬉しかった。

今まで現実から目を背けてしまっていた部分もあるので、福島の生活で今後はもう少し向き合って考えていきたい。

事前の準備から、私達の3週間の滞在中のおつきあいまで、本当にお世話になりました！どんな願いにも細やかに答えてくださり、ありがたかったです！ミナソラのみんなには本当にもう感謝しかありません！！長く続けていけるように、息抜きしつつ、楽しみを持って活動されて欲しいと願っています。

3週間、他の園児の子ども達と同じように先生が接してくださったこと。ずっと前からこちらの園でお世話になっていたかのようにあたたかく接してくださり、本当にありがたかった！お別れの時、同じクラスのお友達や先生が書いてくれた寄せ書きは一生の宝物です！

子どもがとっても楽しんで通っていたことがうれしかった。

幼稚園のお母さん何人かとは、連絡先も交換でき、観光にもおつきあいいただけてうれしかった。

本当にミナソラスタッフの優しい方々に出会えて嬉しかったです。震災当初はマイナスなことばかりでしたが、最近はプラスなことも増えてきて、頑張ってきてよかったと皆さんに出会えて改めて思いました。また絶対会える日を信じて毎日頑張ります！

ご協力いただいた皆さまのご感想

今回ミンナソラノシタの活動趣旨に賛同し、幼稚園短期留学の受け入れを年長児2名、10月16日（月）から11月3日（金）までの3週間しました。

自然に恵まれた当園で、思いっきり外遊びをしてもらったり、その間ミカン狩りやおにぎりパーティー、お店屋さんごっこ、バザーなどのイベントにも参加してもらったりして、京都での思い出をいっぱい作っていただきたいと思い取り組みました。

当初園にすぐに慣れてくださるか心配でしたが、思ったより活発に1日目から園の子ども達と友達になり遊ぶ姿があり、よかったです。初めは雨が多く、外遊びができませんでしたが、その後、晴れた日には園庭で思い存分遊び、笑顔も見られました。大きなけがもなく、楽しく3週間をすごしていただき、安堵しています。

また福島のお母さんを囲んでの茶話会では、被災当時のこと、そこから今までの子育てのご苦労、母親としての葛藤などをそれぞれ自分の言葉で語ってくださり、心打たれる時間でした。実際の貴重な体験談は、参加したお母様方や私達がさまざまなことを考える

機会になったように思います。

その後、12月に福島の私立幼稚園の園長先生3名が当園を訪ねてくださいました。園児たちが遊んでいる元気な声を聞いて、「今の福島の園児の声とは違う。活気にあふれている。以前は、自園の子ども達もこんな声だった。改めて環境の大切さを痛感する。」と話されました。また「お母さんが元気でないと子どもも元気にならない。」「福島では、親が精神的に傷つき、まだその心が癒えない人がいっぱいいる。でもそれを口に出して言えない。一時期、福島の地を離れることにより、親もリフレッシュできる。」という話も聞き、まだまだこの事業の必要性を感じました。

『未来の担い手である子ども達を大人が、どのように守り、どのように育てていくか』『人が困難に直面した時、自分は、どんなことができるか？と考えそれを行動に移すことができるか』目の前のことをこなす、自分の周りことだけに目を向けるといった日常とは違う視点をこの事業を通してみんなが持ち、協力して取り組むことができた点が有意義でした。

この事業はミンナソラノシタのスタッフの方を中心にさまざまな多くの方のみなさんの支援により、できた事業だと思います。今回このプロジェクトに参加することで、いろいろな方の善意に触れることができよかったです。園の受け入れとして、不十分な点は多々あったと思いますが、次につなげられるように協力していきたいと思っています。

大原野幼稚園 園長 吉江 美和子



ご協力いただいた皆さまのご感想

「おはようございます」と元気な声が玄関に響いた幼稚園留学初日。

幼稚園の玄関には福島からやってきた2組の親子が笑顔でこられました。それが初めての出会い…でもなんだか初めてとは思えないぐらい優しい笑顔でした。制服に着替えて自己紹介をして初めて会う先生やお友達とすぐに仲良くなりました。



子ども達は、園庭で遊んだり、遠足に出かけたり、クッキングを体験したりのびのびと過ごす事が出来、太陽の光を身体いっぱい浴びて短い間でしたが、元気に福島の各園に帰っていきました。

お母さま方とは、茶話会をしながら、震災当時のお話や、震災直後からの子育て、食べ物など様々な悩みを話してくださいました。大変だったんですね…ではすまされないほどの大変な中を今も過ごされているのだと思うと本当に心が苦しくなる思いでした。

私たちにできることは何もないのかもしれませんが、幼稚園留学を通してお役に立てるならできるだけ協力させて頂こうという気持ちにより一層深まりました。

京都と福島は遠く離れていますが、東日本大震災そして、東京電力福島第一原発事故のことをこれからも語り継いでいかなければならないと思いました。

洛西花園幼稚園 園長 小山内 定代

京都信用金庫はミナソラと出会ってから、多くの方にミナソラの活動や福島の現状を知ってもらおうという思いで応援して来ました。幼稚園留学のサポート企業を紹介し、留学時の住居や食材、余暇を愉しんでもらえるメニューを提供する橋渡しをしました。福島の方と京都のサポート企業の方との交流を目の当たりにして感慨深い思いになり、もっと拡げて行けないか？とも思いました。福島子ども応援チャリティコンサートは、最初は留

学費用の捻出が目的でしたが、終わってみれば音楽の力にも助けられ、福島の事を考えるステキな時間になっていました。この応援で皆が口をそろえて言うのは、「何かしたいけど、どうしたら良いかわからなかった。ミナソラと出会えて少しでも応援に参加出来て良かった」です。京都でのミナソラの存在意義は重要です。今後も良きサポーターとして応援して行きたいと思います。

京都信用金庫滝ノ町支店 支店長 小倉 光雄

ご協力いただいた皆さまのご感想

ミンナソラノシタメンバーのママさん達は、幼い子どもを抱えた子育て中のママの集まりでした。「ボランティア」の枠を超えているのではと感じながら、「福島の子どものために!!」熱心に取り組んでいるママさん達の行動を見て感動しました。

メンバーのママさん達のマンパワー（活動時間）は概ね、1日2時間ほど。名誉や報酬も求めずに活動されていました。活動準備資金調達にはタイヘン悩んでいる様子も窺えました。当方も歓迎会に参席させていただき、「未だに土壌の除染されていない場所があり、子どもを安心して外で遊ばせられない。遊ばせてあげたいが外に出られない」、「原発事故の話題は今も、郡山市ではできない状況。最

近やっと個人的に振り返れることができてきた」など、福島のママさん達から実情をお聞きし、驚愕したのを今も覚えています。

福島の子どもとママさん達が、福島に帰る時の集合写真を拝見しました。楽しく過ごされニコニコ顔・顔！京都に來られた時と比べ、一段と明るい笑顔に変貌されていたことを嬉しく感じました。

子どもの未来への一步をサポートし、次世代の心豊かな暮らしを応援し、福島に暮らすママと子ども達と繋がり、一人ひとりに笑顔が浮かぶ幸せを願い、深謀遠慮の計画をされているミンナソラノシタを応援することは、当社の「社会的責務」だと考えています。

株式会社キリン堂 総務部顧問 島田 幾雄



この度、ミンナソラノシタ様を通じ、幼稚園留学をされるご家族のお住まいをお手伝いさせていただきました。

私共も初めてのことで、満足のいくお手伝いは出来ませんでしたが、お越しいただきました皆様のご協力により、無事3週間を終えることができました。

弊社では震災の後、社員全員で福島にてわずかな時間ではありましたが、瓦礫撤去のお手伝いをさせていただきその後、テレビや新聞報道で復興が進んでいるとの情報を目にしておりました。

しかしながら今回、幼稚園留学の間にお越

しになられたお母様にお願いし、弊社社員の前で福島の現状をお話いただきました。若い社員は涙し、私たちもイメージとの違いに大きなショックを受けました。表面的な復興ではなく、本当に子ども達が青空の下、元気よく走り回れる環境に戻るにはまだまだ時間がかかることを痛感いたしました。

私たちに出来るお手伝いはわずかなものですが、地道な活動が継続すれば大きな力になると信じております。今後も機会がございましたら、ご協力して参ります。

株式会社リヴ 代表取締役 波多野 賢

ご協力いただいた皆さまのご感想

「福島は自慢の故郷。原発事故が無かったら胸を張って是非来てください！と言いたかった。どうか皆さんが住むこの土地を大切にしてほしい。」この言葉から自慢の故郷が放射能で汚染されて二度と元に戻らないという現実への怒りと悲しみ、原発事故はまだ終わっていないということ、今も不安の中で日々悩み続ける人がいるということが分かり胸が詰まるのと同時に、福井の原発から60キロしか離れていない京都を守るのは私たちひとり一人の責任でもあるということを感じ、気が引き締まりました。

今回、コープ自然派京都としては、組合員の皆さんに幼稚園留学のことをお知らせし、

カンパを募り、多数の賛同を得、微力ながらコープ自然派の安心安全な調味料や食材を、来られる方に思いを馳せて提供させていただきましたが、アンケートやご報告いただいた内容から大変喜んでいただいたとわかり、理事会一同喜んでいきます。

コープ自然派京都の理念「私たちは、自然を守り大切ないのちを育み、ひとり一人が響き合いながら安心して暮らせる社会を創ります」と同じ想いのこの幼稚園留学を、私たち自身も当事者であることを認識しながら支援させていただいたことをきっかけに、共に考えていきたいと思っています。

コープ自然派京都

ミナソラのメンバーと出会い、6年目にしただけに福島支援にチャレンジされることに感銘を受け、お手伝いすることを決めました。生活クラブ京都・エル・コープは事故の年の夏から毎年リフレッシュツアーを企画していますが、近年は受け入れメンバーの不足もあり、2家族3泊4日に縮小しています。

まだまだ被災地の状況は深刻なのに、受け入れが小さくなっていくことにジレンマを感じていました。私たち生協の中で完結するのではなく、外に向かっていかなければならないと考えていたのです

そこで私たちの食材を提供しようということになりました。1口300円の呼び掛けで、17万円強が集まりました。

今回来られた方々は、幼稚園の年長さんで、ちょうど事故の年に生まれています。そのことが何を意味するのか、交流会で話を聞いて初めてわかりました。大きなおなかを抱えてどんなに不安だったか。これまでに会って

きた被災者の方とはまた違う経験で、同じ年代の受け入れの方々の共感も大きかったと思います。

「若狭で事故があったら、皆さんにも同じことが起こります。それをお伝えしたい。」という言葉に衝撃を受けました。なんと強いのか。ふつうのお母さんが1人の市民として誇り高く強くなられている。福島の方々に保養を提供することで私たちのほうが大きな恩恵を受けていると思いました。

今回の幼稚園留学のお手伝いを通じて、市民同士が出会い、共感することは公に任せたのでは出来ないことだと感じました。ミナソラの大きな負担を見て、それでも何とか関西で支援を広げ、来年につなげてほしい。エル・コープも試行錯誤を続けながら、助け合えればと思っています。

生活クラブ京都・エル・コープ

ご協力いただいた皆さまのご感想

福島県内の幼稚園児さんの留学活動に賛同し、「どんぐりで遊ぼう！」プログラムの指導をお受けしました。どんぐりを使った竹鉄砲、アーチェリー、ピタゴラスイッチ台、竹へびすべり台、ツリー、やじろペー等を試作して、9月11日（月）勝山公園にて約40名で「どんぐりで遊ぼう！」リハーサルを行い、NHK京都放送局の「京のええとこ連れてって」で放送されて好評でした。

10月21日（土）の本番には、参加者200名規模のどんぐり竹遊具を準備しましたが、

2週連続の台風で中止となり、11月1日（水）の夕方に園児さんの宿泊先で、福島県の園児さん4名を含む約30名に「どんぐり竹遊具あそび」を行い、京都新聞に掲載されました。

これらの「どんぐり竹遊具」は福島県の4つの幼稚園にお贈りし、各幼稚園から園児の皆さんがどんぐり竹遊具で遊んでいる写真やお礼のメッセージを頂き、遠い福島県で役立ってよかったと思いました。

おとくに竹あそびの会・竹遊会

代表 佐古 節夫



受け入れ幼稚園保護者の感想（一部抜粋）

今回ボランティアに参加させてもらい、ミナソラのスタッフの方、福島親子の方と、短期間だけど時間と空間をともにさせてもらい、やはり母親として思うことは同じでした。

娘も心と体で何か感じた様子でした。福島のお友達にお手紙を書いていました。子どもの真っ直ぐな姿を見せてもらえました。

福島のお母さんにとって当時の話をするのは辛いことだと思うが、震災を知らないママさんに伝えることは必要で、今後も活動が続けていっていただきたいと思いました。

すごく考えさせられるボランティアでした。育児プラス、日々見えないものと戦っているような生活をされているのかと思うと、大変だね、気の毒だね、なんて言葉が軽すぎて、何も言えません。同じ母親として、ただただたくさんリフレッシュして行って貰いたいという気持ちでいっぱいでした。

震災当時どんな風に過ごされたのか、どんな想いだったのかを直接聞いたことと、報道では知り得ない今の福島の現状を知ることができて良かったです。震災にあって自分だけでなく子どもを守るために必死だったこと、今も放射能を気にして子育てをする矛盾や悔しい想いなど様々な話を聞かせてもらって同じ子育てをする母親として、今も震災は終わっていないと忘れてはいけないことだし、他人事にはいけないなと思いました。

震災当時の話とか実際に体験している人に聞くのは初めてで、すごい衝撃でした。その後も一部では外遊びができないことにも正直まだそういう状況ということを知らなかったし、とても大変な状況の中で子育てされてきたんだと思うととてもつらくなりました。まだまだ震災後の生活がもとに戻るには時間がかかりそうで、それがとてもつらかったです。

お母様達を囲んで被災した当時と現在の状況など実際にお聞きすることができ、まだまだ復興に支援が必要なことを改めて感じましたし、今まで知りえなかったお話を聞く貴重な時間となりました。なぜ福島からお友達が来ているのか幼稚園でお話をさせていただいたので家でも話をするきっかけとなりました。

園で見かける福島のお子さんたちはとても楽しそうでニコニコしているところをたくさん見かけました。また、お母様方とも少しお話する機会があり、とても楽しく過ごされているように思うので、とても良かったと思います。

親子留学等の御礼

東日本大震災・原発事故から7年が経過し、園庭に埋設、保管された放射能汚染土壌の外部搬出など復興の兆しを少し感じられるようになってきましたが、外あそびの時間、空間、場所等が一部制限され、それに伴うあそび環境が急変し、福島の子どもの最善の権利を保障出来なくなりつつあります。子ども達にとって安全で安心でき、以前の「あたりまえのあそび」ができる幼児育成環境構築と親子の「こころの健康」のケア等が急務となっています。

長年に渡りご支援いただいております親子留学は、何事も気にせず外遊び、交流等で過ごせる京都の満喫した日々は、親子にとって一生忘れられない「宝物」となっています。

ミナソラノシタ様、京都の幼稚園様、関係各位皆様の特段のご支援、ご高配を賜りまして衷心より御礼と感謝申し上げます。

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会
理事長 平栗 裕治

来年に向けての課題

ミナソラが初めて単独で主催した短期幼稚園留学は無事終了しました。これもひとえに、ご協力いただいた皆さまのお陰と深く感謝申し上げます。

福島の子子を温かく迎え入れていただき、3週間楽しく過ごすことができた大原野幼稚園と洛西花園幼稚園の園長先生はじめ先生方や保護者の皆さま、住居を提供いただいたリヴさま、全面的にご支援いただいたキリン堂さまや京都信用金庫さま、その他多くの皆さまのご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

福島のお母さんや京都の幼稚園の保護者たちが来年以降もこの幼稚園留学を継続できることを願っております。

そのご期待がある限り、幼稚園留学を継続して実施し、多くの人へ広めていくのがミナソラの役割であると認識しておりますが、そのためには克服しなくてはならないいくつかの課題があります。

運営するミナソラのスタッフ不足や、協力していただける幼稚園の開拓、資金面での不安などが主なものです。

これらの課題をひとつひとつ解決していきながら、ミナソラとして、一人の母親として、さらに成長し一歩ずつ前に進んでいきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



ミンナソラノシタの歩み (2013-2017)

ミンナソラノシタ設立のきっかけ

2012（平成24）年、まこと幼稚園（京都府向日市）おいないプロジェクト発足。

「目に見えない放射能の恐怖と闘いながら、子ども達のため日々頑張っている幼稚園の先生にリフレッシュしていただきたい」という想いで、福島県郡山市の幼稚園の先生を京都に招くプロジェクト。

2013（平成25年）

ミンナソラノシタ発足

おいないプロジェクトに実行委員として参加した林代表が、一時的な支援だけでなく、持続的な支援の仕組み作りの重要性を感じてボランティア団体を立ち上げ

「100年先もみんな空の下で幸せに暮らしてほしい」という想いから、団体名を「ミンナソラノシタ」と命名

立ち上げ当時のメンバー



立ち上げ当時のメンバーはまこと幼稚園の保護者が中心で、みんな幼い子どもを抱えた子育て中のママ・パパ達

7月

オリジナルグッズ企画

オリジナルグッズを製作・販売し、その収益の一部を福島の子どものために活用することを企画

8月

製品デザイン決定

ミナソラの想いに賛同してくださったイラストレーターの黒田 征太郎さんから、デザイン原画15点を無償提供していただき原画展を開催
来場者の投票でデザインが決定

イラストレーターの黒田征太郎さん



9月

商品決定

絵本バッグにもなる手さげカバン（製作：NPO法人リンデン福祉会）
ショルダーバッグとトートバッグ（製作：一澤信三郎帆布）
ポストカードを作成

ショルダーバッグ（製作：一澤信三郎帆布）



関西テレビ取材開始

関西テレビがオリジナルグッズ製造元や定例会を継続して取材

11月

福島出張

郡山市、福島市に出張
大槻中央幼稚園や3a、福島市子ども支援課等を訪問

2014 (平成26年)

室内砂場の寄贈を目標に 「福島こども応援基金」設立

オリジナルグッズの収益の一部と寄付金を活用して、砂遊びが出来ない福島の幼稚園に「室内砂場」と頻繁に手洗いをするためのハンドソープを送ることを目標に基金を設立

2月

新製品キックオフイベント開催

新風館（京都市中京区）で新製品のお披露目会を開催 来場者200名
当日は、黒田 征太郎さん指導による「木っ端アートワークショップ」も行われ、出来上がった作品を福島の幼稚園に寄贈

新製品キックオフイベント



ミナソラオンラインショップ開設

オリジナル製品がネットで購入できるようになる

3月

ミナソラサポーターショップ開設 (2017年現在 5店舗)

オリジナル製品を店頭で購入できるようになる

9月

2015 (平成27年)

講演会

「チェルノブイリから学ぶこと」開催

講師：馬場 朝子さん

2月

3月

郡山市私立幼稚園協会総会に出席

オーストラリア産ホワイトサンド
8トンの目録を贈呈

9月

講演会

「世界と福島と私たち…」開催

講師：岡本 知之さん／平栗 裕治さん

11月

桂中学校とのコラボグッズ



桂中学校とのコラボグッズ完成

ミナソラの活動に賛同した京都市立桂中学校生徒会がミナソラとのコラボ商品を制作
学校内で販売、売上を福島こども応援基金に寄付

ミンナソラノシタの歩み (2013-2017)

2016 (平成28年)

新製品

「こどもぼうさいスケッチブック」
完成

(監修：河田 恵昭 関西大学社会安全
研究センター長)

こどもぼうさいスケッチブック



2月

「小さき声のカノン」上映会
& 鎌仲監督トークショー開催



4月

講演会「近くの原発が動きだした
…私たちの防災教育」開催

講師：小出 裕章さん／守田 敏也さん



こどもがまんなかフェスティバル
(郡山市私立幼稚園協会主催) に
こどもぼうさいスケッチブック
1000冊寄贈

5月

株式会社キリン堂と包括協定締結

9月



2017 (平成29年)

2月

幼稚園留学キックオフ
ミーティング開催

3月

京友禅体験&広域避難者交流会
(丸益西村屋) 開催



5月

福島県私立幼稚園・認定こども園
連合会総会にて幼稚園留学の説明

9月

福島こども応援チャリティ
コンサート開催 (花園大学)

出演：キッサコ・mapama・
ゆあさまさや・バリトン歌手 安田 旺司



短期幼稚園留学実施

福島県から4家族13名の母子を3週
間招待、京都市内の幼稚園に通学
受け入れ幼稚園：大原野幼稚園
洛西花園幼稚園



10月

12月

ザ・リッツカールトン京都
クリスマスギフト×ブレイクファースト開催
～福島の子ども達のためのクリスマスギフ
ト持参で、心あたたまる朝食を～



福島子ども達を応援

ハンドソープを寄贈

- イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で得た資金を基に、郡山市私立幼稚園協会にハンドソープを寄贈（2014年以降、毎年2回寄贈）



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」

- シャボン玉石けんの協力で郡山市私立幼稚園協会にハンドソープを寄贈（2014年）



- monlierre、花乃蜜石鹸の協力で郡山市私立幼稚園協会にハンドソープと石鹸を寄贈（2014年）
- 丸菱油脂の協力で郡山市私立幼稚園協会に石鹸を寄贈（2014、15年）



どんぐりひろいイベントを開催

勝山公園を会場にどんぐりひろいイベントを開催。拾ったどんぐりを郡山市私立幼稚園協会に送付（2014年以降毎年11月開催）

室内砂場を寄贈

子どもがまんなかフェスティバル（郡山市私立幼稚園協会主催）でミナソラが寄贈したホワイトサンド8トンを使った室内砂場が作られた（2015年）



室内砂場で遊ぶ福島子ども達

こどもぼうさいスケッチブックを寄贈

子どもがまんなかフェスティバルにスケッチブック1000冊を寄贈（2016年）

ミナソラサポーター ショップのご紹介

こちらの協力店舗でミナソラの「手さげカバン」を販売してくださっています。
販売利益は全額福島子ども応援基金にご寄付いただいています。

マルヤス（向日市立向陽小学校横）
Books&Cafe Wonderland（JR向日町駅前）
京料理 松長（京都市中京区高倉通御池）
リンデン福祉会（京都市北区紫野）
Honda Cars 乙訓（向日市上植野）

テレビ・ラジオ

関西テレビで放映

- スーパーニュースアンカー
ミナソラの活動の様子を12分間放送
直後からホームページへのアクセスが1万
件に到達（2014年）
- スーパーニュースアンカー
ミナソラの活動の様子を12分間放送（2015年）
- ゆうがたLIVEワンダー
室内砂場寄贈の活動を12分間放送（2015年）
- めざましテレビ
桂中学校での講演会の模様を放送（2015年）

NHKテレビで放映

- NHK京都ニュース610
ミナソラの活動の様子を7分間放送（2014年）
- NHK京都ニュース610「京のええとこつ
れてって」（2017年）
- テレビユー福島
ザ・リッツカールトン京都チャリティイベ
ントの模様を放送（2017年）
- KBS京都ラジオ出演
「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（2014、
2016、2017年）
- 京都三条ラジオカフェ（FM79.7）出演
「ハローラジオカフェ～おはようさんどす」（2017年）
「Happy NPO」（2017年）

講演

- 京都市立桂中学校で活動紹介（2015、
2017年）



- 芦屋市立小槌幼稚園で活動紹介（2015年）
- 講演会「100年先もミナソラノシタ」：
長岡京エンパワネット主催（2016年）
- 講演会「ミナソラノシタ幼稚園留学と
は？」：コープ自然派主催（2017年）

受賞

- 第8回ソーシャルビジネスプランコンペ
（大阪NPOセンター）グランプリ（2015年）
- あしたのまち・くらしづくり活動賞（あし
たの日本を創る協会）振興奨励賞（2015年）

今までいただいた補助金・助成金

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ○ 京都府地域力再生プロジェクト交付金 | ○ タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム |
| ○ 京都オムロン地域協力基金 | ○ 子どもゆめ基金 |
| ○ 京都新聞社会福祉事業団 | ○ 向日市社会福祉協議会 |
| ○ 庭野平和財団 | ○ キリン堂 |
| | ○ ラッシュジャパン |

寄付金

多くの企業、団体、幼稚園、個人の皆さまから、多額のご寄付を頂戴しました。
紙面の都合上、お一人おひとりのお名前は記載していませんが、厚く御礼申し上げます。

ミンナソラノシタの活動を通して

私は福島県出身です。避難という形で京都に来ました。ミナソラに参加したのは、震災から2年半後です。2年半の間、私は原発の情報を意図的に遠ざけていました。知らない方が楽だったからです。

しかし、京都で福島を応援している団体があるから参加してみないか、という友人の誘いをきっかけに参加しました。私にとっては、勇気がいることでした。

このミナソラに参加して気付いたことは2点あります。

1点目は、当たり前ですが、「知る」ということはいかに大切かということです。知らないとそこで止まってしまいますが、辛い情報でも「知る」ことでその対処・対応ができます。

私は福島県民でありながら原発事故やその後の影響について、知らないことが多くありました。しかし活動に携わり段々と知っていくことで、現地の方々が本当に欲していることが分かっていき、寄り添うことができてきたのではないかと思います。

2点目は、「挑戦してみる」ことの大切さを感じます。

ミナソラの活動の一つに『災害の啓発活動』があり、原発事故の話や震災体験、この活動の意義等を講演しています。この啓発活動のきっかけは、ある中学校からの依頼でした。私はそれまで自分の震災体験を改めて振り返り、まして人様の前で話すということを考えたこともありませんでした。しかし、この機会をいただき京都の方々に福島の現状や原発、ミナソラについて知ってもらい関心を寄せてもらうことで、福島復興につながるのではと感じました。このチャレンジは、私にとって大きな経験でした。

福島の復興はどのくらい進んでいるのか、どこがゴールなのか、私には分かりません。しかし、少しでも福島の子どもの笑顔ある未来に繋がるよう、この活動が必要な限り、大切なメンバーと共にこれからも応援していきたいと思っています。

ミンナソラノシタ 上田 名菜子

東日本大震災で被災した福島の母子のために何か手助けしたい、その想いの下に集まった私たちですが、このようなボランティア精神はきれいな事なのでしょうか。

私たちは、母親になり子育てをしていくなかで、子育ては一人でできるものではない、他の母親や地域社会との繋がりが重要だということに多々気づかされています。同じ母親として、福島のお母さんに共感し手助けする

というのは、母親の連帯を必要とする私にとっては自然なことのように思います。

一人では力のない母親ですが、子ども達により良い未来を残してあげたいと願うもの同士が集まれば、その理想に近づくための行動が起こせるはずです。少なくとも私たちは子どもを愛してやまない母親なのですから。

ミンナソラノシタ 副代表 加原 ゆり

利益の一部を「福島こども応援基金」に積み立てています



ミンナソラノシタオリジナル
こどもぼうさいスケッチブック
¥500

(1冊につき¥100の寄付)



ミンナソラノシタ×黒田征太郎×リンデン
手さげカバン
¥2,000

(1つにつき¥300の寄付)



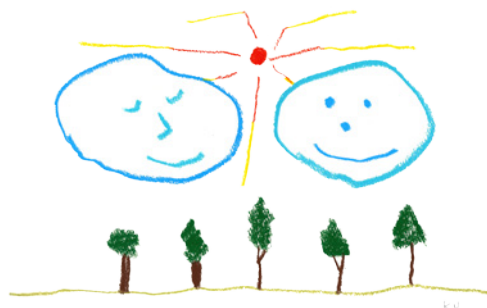
ミンナソラノシタ×澤信三郎帆布
ショルダーバッグ
¥12,000

(1つにつき¥2,000の寄付)

「手さげカバン」や「こどもぼうさいスケッチブック」を、バザーや記念品、指定用品として全国各地の幼稚園に採用いただいています。

入園・入学に必要な物に選んでいただくことが、継続的な福島の子ども達の応援につながります。

皆さまのご協力をどうぞよろしくお願い致します。



〈後援〉

公益財団法人福島県私立幼稚園認定こども園連合会、福島県郡山市私立幼稚園協会、京都信用金庫

〈special thanks〉

黒田征太郎（株式会社エスエーエス）、株式会社一澤信三郎帆布、特定非営利活動法人リンデン福祉会、株式会社キリン堂、京都シニアライオンズクラブ、国際ソロプチミスト京都-西山

ミンナソラノシタ 第1回幼稚園留学2017活動報告

(発行日：2018年5月1日)

発行・編集

ミンナソラノシタ事務局

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

京都市市民活動総合センターメールボックス40番 ミンナソラノシタ

TEL 080-2540-3224 FAX 020-4667-7721 ✉ mail@minasora.org

ミンナソラノシタ

